

四 季

〈広報誌〉
S h i k i

ハートフルな
情報をお届け!!!

vol.05
新春号
2019.1



特集
PICK UP

〈共に生きる〉 「医療」と共に生きる

- | | | | |
|----|----------------------|----|---|
| 01 | 理事長だより ちょうしん記 | 09 | 〈介護の『あれこれ』よく転ぶようになってきた |
| 03 | 特集 〈共に生きる〉「医療」と共に生きる | 11 | 〈地域のかがやき〉とまちミルネ! |
| 05 | 〈子育て〉今こそ子どもを守り育てるとき | 13 | Heartful×Multiple
NBCラジオあさカラ! / イベントスケジュール |
| 07 | 〈未来の力〉長崎国際大学×五蘊会 | 14 | Heartful×Gallery
読者投稿けいじ板～日々是好日～ |

長理事
よりだ

ちよろしん記



2019
Heartful
Message

皆

様、明けましておめでと
うございます。今年も健
康な一年でありますよう、心よ
りお祈り申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが、新
春早々、私にとりましてはこの上
もなく嬉しい事が実現致します。
それは、次女家族四人が長崎に
Uターン移住して来るのです。し
かも、私の仕事の一部を手伝い、
そして受け継いでくれると言うの
です。これ程嬉しい事は有りま
せん。

実は、内心後悔している事が
有りました。それは、二人の娘を
気前良く東京に出した事でした。
東日本大震災の折は関東もかな

り揺れたようで、次女は一時長崎
に避難していました。その時はま
だ独身で、そのまま長崎に戻って
くれないかと願いましたが、やは
り自分の仕事の方が優先で、元

の生活に戻って行った経緯が有り
ます。時が流れ、やがて結婚し、
良き伴侶に恵まれ、二人の孫娘
を授かり、そして私の要請に応
えて長崎移住となったのです。

家

族の形は様々です。それ
を構成するメンバーのそ

れぞれの思い、歴史が複雑に絡
み合っています。それだけに類型
化するのは困難ですが、それを
承知の上で、対象的な二組の家

『子供を他所に出しては いけません』のお話し

族の形をご紹介致します。

お話ししたいシーンは「看取
り」と言う極限の舞台。登場人
物は「死」を間近に控えた主人
公とその家族、そして私を含め
た医療・介護スタッフ。家族関
係は断片的にはうかがい知れる
ものの、本当の家族の形は不明
お伝えできるのは病室の様子のみ。

A

さんは九十歳、女性。ご
主人には十年前に先立た

れ、三年前には頼りにしていた
相談相手の叔母も他界、2年前
より施設暮らしを始めていまし
た。足腰の衰えに軽度の認知症
が加わり、独居生活が困難となっ

ていました。家族の思い出が詰
まった自宅はそのまま、子供は
男子三人。それぞれ関東、関西、
福岡に居を構え、既に定年を過
ぎていましたが、長崎に移住す
る予定はありませんでした。そ
れぞれ離れて居住する三人の息
子家族と老母。

Aさんは肺癌末期で、病状の
悪化とともに呼吸困難が進行し、
高濃度の酸素吸入が必要で、短
い会話も困難な状態に陥っていま
した。入院から約三十五日、い
よいよ最期の時を迎えようとし
ていました。福岡の息子さんが
時々枕元に付き添っておられます
ものの、ベッドサイドは何か寂し

く、最期を迎えようとするAさんの大切な時間が空費されるかのように感じた。遠方の二人の息子さんは臨終の直前には間に合いましたが、最期の言葉を交わす事はできませんでした。

一 方のBさんは八十四歳、男性。奥さんはご健在で

2人暮らし。子供は娘2人。近隣在住でそれぞれ家庭を持ち、孫も数名。更に、ひ孫も数名。

Bさんのご病気は重度脳梗塞。最近では厄介な誤嚥性肺炎を繰り返し、病状は暫時増悪傾向にありました。今回はこれまでになく重症で、入院から五十日以上が経過し、呼吸不全が改善せず、いよいよ最期を迎えようとしていました。入院当初から常に誰かが看病・介助に付いていましたが、最期が迫るにつれその数が増して行きます。多くの家

族が、意識の遠のいたBさんの身体をさすり、手を握り、感謝と励ましの言葉をかけて行きます。そして、多数の家族の涙の中で、Bさんは皆に見守られるように永眠されました。

ど のような最期を迎えようとも、「死」の意味や重み

には差は有りません。しかし、「死」に至る直前までの「看取り」の時間帯は、その人の人生の最後のシーンとして、たとえ意識が無くなっていたとしても、本人にとつても、家族にとつても大切な意味を持って来ます。そして、そこには様々な形の「看取り」の姿が、その人の人生を投影するかの如く表出されて来るものです。多分、それは永遠に別れなければならなくなった人への参加者個々の愛情、惜別、感謝、哀悼、共感、お詫び、その他の思いが

奔流の如く溢れ出たものだからでしょう。

震災後、遺体が未だ発見されぬ家族を探して捜索隊に加わる遺族の姿が度々報道されていた。時間経過からして生還の見込みの無い家族を探す人々。受け入れがたい「死」。この行為と時間は、ひよつとしたら「看取り」と同じ意味があったのかも知れません。

娘二人を東京の大学に進学させた頃、私はまだ四十歳代、南クリを始めたばかりの働き盛りでした。誰よりも物分かりの良いい父親でいたかったし、自分が年老いた姿のイメージも想像していませんでした。しかし、それから時間が経過し、それなりの年齢に達した時に自分の立ち位置がよく見えて来たのです。

私の場合、幸いにも次女家族が戻って来る事になりましたが、

世の中そううまく行くものではないありません。子供達は鮎の稚魚ではありませんので、一旦長崎を出ると戻って来ません。

ここには根深い問題が有りません。確かに教育問題や就職問題から始まり、やがては結婚問題に行き着きます。しかし、子供の将来を考えての決意でも、最終的な家族の幸せには繋がらないのです。皆さん、物分かりの良い親になつてはいけません。子供を他所に出してはいけません。昨今のような少子化の時代になると尚更の事です。

決して、息子が悪いとか、娘が良いとか言っているのでは有りません。私も親から見れば二人の息子になりますので。



医療法人 春秋会・
社会福祉法人 五蘊会
理事長 永田 剛

「医療」と共に生きる

南多機関型地域包括支援センター

立石 大輔

今年はいかに生きるをテーマに「地域」「医療」「介護」「障害」の連携の在り方を考えていきます。今回は、医療における相談機関の要である、長崎市包括ケアまちなかラウンジの皆様に話を伺いました。

①長崎市包括ケアまちなかラウンジの活動内容ってなに？

平成23年度から、市民の皆さんから医療・介護・福祉のいろんな相談を受ける場として設置されています。平成28年度からは介護保険法の改正に伴い地域支援事業である在宅医療・介護連携推進事業を並行して行っています。

医療介護の総合相談窓口のワンストップサービスとして、看護

師とケアマネジャーを配置しています。相談をお受けして、必要があれば病院・包括・居宅（ケアマネジャー）に繋いでいます。相談を窓口で交通整理をしているような捉え方をしていただいたらよいかと思います。市民の皆様には地域包括支援センター（以下、包括）との違いが分かりにくいとよく聞かれます。包括が市内に20箇所、中学校区で高齢者に対応しています

が、まちなかラウンジは地域に關係なく、長崎市全域を対象としています。在宅医療・介護連携推進事業では、開設当時から毎月行っている「まちなかサロン」と市民健康講座を行っています。市民の皆様への普及啓発事業、医療介護関係者への研修的なものを行い、事業の大きな柱となっています。また、介護関係者への医療面の研修

等、幅広く推進事業を行っています。一方、まちなかサロン等は見直しが必要だと考えています。

初めは来所での相談が多かったですが、最近は9割が電話相談になっています。長崎市の生活便利ブックや「すこやかガイドブック」を見て電話されてくる方が多いです。近隣の診療所からの紹介はありますが、病院からの紹介はあまりありません。

②どんな相談が多いの？

相談者は市内の方が中心ですが、県外に住む子供さんからの相談や、県外に住んでいて長崎に帰りたいが情報が欲しい等です。病気で悩まれていることについて、年齢や住居などは関係なく受け付けています。

対応としては、転院になったこ



長崎市包括ケアまちなかラウンジ
右 主幹(看護師) 中島真理子氏
中央 所長 安田 静馬氏
左 主幹(看護師) 宮地登代子氏

とへの理解ができていない方へ状況の説明等、医療・介護に関するの情報提供、相談支援というのが一番です。病院の連携室もそのような相談が多く、私たちの中では地域の連携室みたいに感じています。

相談期間は様々で何年もずっと続いている人もいますが、匿名の人などは一回で終わることもあります。長く続く人は全体の1割、2割。名前は大体言われますが、追加での情報を渡したいこともあるので、連絡先は確認するようにしています。

元々は市民の相談窓口でしたが、最近は専門職からの相談が増えてきています。専門職の方が医

療知識の確認をされたり、がんについての問い合わせも多いです。こちらからは、主に病院の連携室や診療所の先生、包括、ケアマネになくことが多いです。本当は「外来の看護師さんに患者さんがこんなことで悩んでいますよ」と直接つなぎたいのですが、お忙しいので、連携室に相談しています。

③ 具体的な事例はありますか？

新しい治療、特に抗がん剤での治療は進んできていて、「先生からこういう治療を提案されたがどうなのかな」と聞かれることがあります。私たちは、病院にいないので新しい治療は正直難しい。治療方法を調べてから、知り合いの



医師など専門職に聞くことにしています。ある方は電話のやり取りだけでした。余命半年と宣告されていたのですが、この新しい治療をされて寿命が1年くらい伸びました。前向きに治療されて、最後にやりたいことをやって亡くなられました。

また、がんの方で、初め先生から手術の成功確率が5%と言われて、かなり悩まれている相談がありました。その方は手術に賭けられて、無事成功されました。時々、お手紙で報告が来ています。手術が成功したとはいえ、厳しい状況なのでこちらからお電話するのは控えています。時々そうやって報告が来ています。こんな風にお手紙が来たりすると自分たちがちよつと役に立っているのかなと思えます。

他にも、入院中「先生からは在宅は無理」と言われたという方の家族さんから相談があって、話を伺うと「家で看てもいいんじゃない」となって、在宅の先生につないでもらい看取りをされたこともありました。病院で「転院しますか、在宅しますか」と言われても、患者さんご家族も「在宅」のイ

メージが今までの「外来へ受診するイメージ」じゃないです。病院で説明されてるんでしようが、よく理解ができていない。病院でないところで説明を聞き確認すると納得される方が多いです。

④ 地域包括ケアシステムとの関係性は？

在宅医療・介護連携推進事業を確実にやっていくことを求められています。

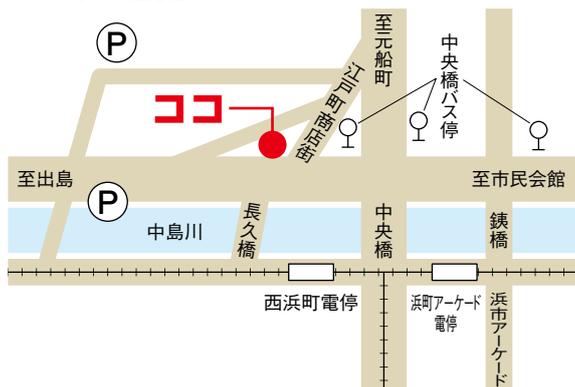
在宅医療が介護と連携しながらうまくスムーズにいくようにお手伝いしていきます、在宅を支援する先生方が増えればいいかなと。

今後、地域包括ケアシステムの一番中核となるのは地域包括支援センターだと思います。地域包括支援センターとの関係性を強めていき、私たちの一番の強みである看護師などの専門職の知識を地域包括支援センターに活用していただきたいです。そしてケア会議などにもっと呼んでいただければと思います。

私達も会議に行ったら在宅での生活を学べます。私たちは医療面しか見えないので、呼んで頂いたら色々な知識をいただけます。

⑤ 市民の皆さんに対して、一言お願いします。
いつでも一人で悩まないで簡単な事でも匿名でも電話でもご相談いただければ。

長崎市包括ケアまちなかラウンジ



【アクセス】

長崎市江戸町6番5号
江戸町センタービル2階

開設時間／月曜～土曜 午前9時～午後5時
(※日曜・祝日はお休み)

問合せ先／電話：095-893-6621
FAX：095-826-3021

今、子育てを「守り育てる」よき

社会福祉法人五蘊会

理事 浦川末子



子どもたちの現状

昨年度、本県子供の問題行動調査報告で注目すべきは、暴力行為の低年齢化と不登校児童生徒の増加です。中・高生の暴力は激減したものの、小学校特に一年生が急増しています。生後五年間で子供の心に何が起きているのでしょうか。また、不登校児童生徒が年々増加し、十数年前と比べ、五

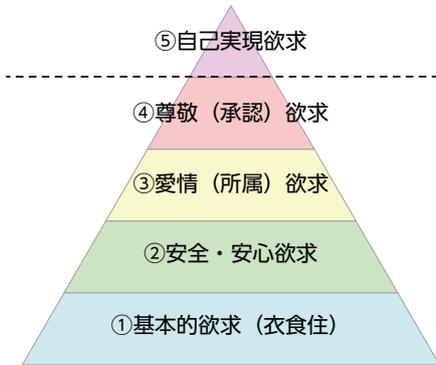
百人増となっています。さらに、昨年度、内閣府の白書で「居場所」を尋ねた項目を見ると、一位が「自分の部屋」で89%、二位が「家庭」で79.8%、三位が「インターネット空間」62.1%となっています。「居場所」が、家庭ではなく自分の部屋であること、学校や地域が子供にとって安心できる居場所になっていないこと等が指摘されています。子供にとって住みやすく、育ちにくい環境のようです。

子どもたちの自己実現のために

米国のマズローは、下図に示すように、人の欲求を五段階層で理論化しました。

マズローが言う自己実現は、公共の福祉を願う生き方を言い、その人によって周りが幸福になる状態を指しています。だから、自己

自己実現を果たした人は社会貢献ができる



(図) マズローの欲求5段階説

実現を果たした人は、社会的にも成功し社会貢献ができると言っています。社会の宝である子供に、大人総力で関わることで、成長後の子供たちが幸福な社会を実現してくれるとすれば何と幸福なことでしょう。今こそ、子供たちが周囲に受容され、安心して行動できる環境(居場所)を提供しなければなりません。

見直されてきた幼児期の重要性

「子どもが小学校に入学する前に、すでにレースの半分以上を走っている。」とか「五歳までの非認知能力の向上に重きを置いた教育が人生を左右する。」という考え方がようやく社会に認知され始めました。端的に言えば、就学前に一億円投資すれば、やがてその子が七億円を社会に還元すると言う事でしょうか。就学前の保育・教育が如何に重要かを知っている先進国では、国のインフラとしての施策が早くから行われています。

全ての子どもに「愛着形成」を

「愛着形成」について精神科医岡田尊司は、「人間が幸福に生きていくうえで最も大切なものは、

愛着である。愛着とは、人と人との絆を結ぶ能力であり、人格の最も土台を形造っている。安定した愛着が形成された人は、対人関係や仕事においても高い適応力を示し、人とうまくやっていくだけでなく、深い信頼関係を築き、成功のチャンスをつかむ。」と云っています。そもそも、「愛着」は、母性としての安全基地と父性としての「送り出す」表裏の意味を持ち、守られているからこそ主体的に外へ出る事ができるのです。

このような思いから子どもを力強く社会に送り出すために、「幼児期の保育・教育」と「放課後児童クラブ（学童保育）」に関わってきました。未来を担う子供の育成は、五蘊会の根本理念と合致し、法人に対する強い期待と敬意を持って一丸となって頑張っています。

今回は、金谷先生が率いる琴海町のこすもすクラブの実践を紹介しましょう。

「地域と共に」子供の社会性を育てる

子供は、人にまみれ、様々な経験を重ねることで、共に生きることの大切さを実感し、共生社会の担い手となる力を獲得していきまします。そのため、子供たちに人とかかわりを持つことや様々な体験をさせていかなければなりません。そういった場の設定においては、幸運にも、「地域と共に・寄り添い支援」を標榜する五蘊会に属していることもあり、高齢者や障害を持つ方々と継続した豊かな交流を行うことができます。

(1) 琴の浦荘^{※1}との交流

核家族が進む中、高齢者と過ごす場を提供するため、年間を通じて琴の浦荘との交流を行っています



琴の浦荘入居者様と一緒に初めての干し柿作り

ます。今年は、琴の浦くんちへの参画、干し柿づくり、年賀状、福祉体験、畑づくり、植え付け、収穫等を実施しました。接し方が分からず戸惑っていた子供たちが、交流を重ねていくうちに、言葉を交わし、手をつなぎ、自然な姿で一緒に活動するようになりました。子供たちの訪問を喜んでくださることは、子供たちに自信を与えるとともに他者を思いやる心を育てることにつながっています

(2) つくもの里^{※2}との交流

子供たちはこれまで障害のある人達との交流は皆無でした。共に生活する環境にない子供たちに、障害に対する正しい理解をし、認めあう気持ちを育てたいと考えています。今年初めて障害者の方々が働くつくもの里との交流が実現しました。障害について学ぶ時間を作り、つくもの里で作られている液体せっけんづくりの共同作業を体験しました。できた品を、通所者とともに販売する経験も



液体せっけんをつくもの里の通所者様と一緒に販売

しました。手を取り合って喜ぶ子供たちを見ながら、共に過ごすことがいかに大切であるかを実感しました。この後も交流を続けます。高齢者、障害者、子供たちが当たり前前に日常に交流し、理解しあえる環境を作り、地域共生社会の担い手となる子供たちの育成に力を尽くすことが放課後児童クラブの使命であると考え努力していきます。

※1 社会福祉法人 五蘊会

特別養護老人ホーム 琴の浦荘

※2 社会福祉法人 琴の海いよしの会

就労移行支援事業所・就労継続支援（B型）事業所つくもの里

長崎国際大学 × 五蘊会

ごうんかい



第二回は長崎国際大学 人間社会

学部社会福祉学科3年 **荒木美咲**

さんと実習担当の**脇野先生**に、現

在「五蘊会」で勤務する卒業生の

辻佳希が話をお聞きしました。

辻 さっそくではありますが、荒木さんはなぜ福祉の分野を志したんですか？

荒木 亡くなった祖母がきっかけでした。祖母は認知症と骨粗鬆症を患い、デイサービスを利用しながら自宅で一緒に生活し、家族で介護をしている状況でした。ある日、祖母は転んでしまい入院し体調を崩してしまいました。そのまま病状が回復せず、亡くなってしまったんです。その時のことを思い出すと、祖母を精神的にも体力的にも支えることができなかつたと感じます。自宅での介護の大変さを知り、福祉分野でも興味のある

た高齢者分野を志し、大学で勉強することにしました。

辻 進路としては、高齢者分野なんです。将来の目標は？

荒木 実習に行く前は、施設のケアマネジャーの仕事や生活相談員の職業内容を知りませんでした。実習を通して高齢者分野で働くには、介護の知識がとても大切だと感じ、私は介護福祉士の資格も将来とりたいと思っています。資格を取り、知識を持って利用者さんと向き合っていきたいと思っています。

辻 実習を通して、将来の仕事をする姿が具体化できてよかったです。就職先を決めるときは何を重視したいですか？

荒木 私は正直、精神的にも弱いので給料ではなく自分にあったやりがいを感じられる環境を見つけることができればと思います。辻さんから何かアドバイスはありますか？



辻

話しやすい環境が一番だと思います。私が今の職場に入社した時、仕事や介護についての技術はもちろん、プライベートなことも相談しやすい環境でした。だから長く務めることが出来ているのだと思います。先生から見ても学生たちは将来の職場に何を求めていると感じますか？

脇野

「やりがい」だと思えます。職場でやりがいをもって働くことができるか不安を抱えている学生は多いです。また、学生たちは人間関係をうまく築けるかにも不安があるようです。その2つは見ただけではわからないことだと思えるので、実際に実習などで経験し、自ら見つけて行ってほしいと思います。

辻

今後、卒論も大変ですが頑張ってくださいね。

荒木

卒業論文は孤独死について書いていこうと思っっています。孤独死についての知識がないので、実習にいき一人暮ら

辻

しの利用者さんと接するこ
とで、見守りができる環境は
整っているか、他国の施策な
ども参考に、脇野先生と相
談しながら作っていきたく
と思います。



長崎国際大学 人間社会学部
社会福祉学科

坂本 雅俊先生へのインタビュー
をご紹介します。

学生さんにはどのような傾
向がありますか？

今の学生は身近に福祉の学習がある。高校生までの生活体験で福祉を経験し、介護施設などでボランティア活動に参加しているので学びたい学生が多い傾向にある。

就職先にしても、以前は一般企業と福祉分野で半数に分かれたが、現在は6割くらいが福祉分野を希望し就職している。

学生の方はボランティア活動
について参加は熱心ですか。

ボランティアに行く学生はサークル活動などで希望者はいる。ボランティア活動に対する求め方についても施設側は考えないといけない。施設は無資格でもいい。その間、職員を休める。もつと学生を信頼し、職員をやすませる。そんな機会を与えていいと思う。ボランティアも社会資源であると思うし、ヨーロッパではやっている。

どのような福祉施設に魅力
を感じますか？

30〜50代の方が笑顔で働いている職場には魅力を感じやすいし将来像が見える。入職し20年くらいいる女性職員が面談会などに参加し、学生や就職希望者と話をする。学生側も将来像が描きやすくていいのではないかと思う。中堅職員が辞めずにいるのが、『働きやすさ』の生きた証拠だと思う。それと、施設の情報の見せ方、特に透明性は大切だと思う。海外では数年

しかたっていない施設でもお金とアイデアを生かして趣向を凝らしていた。日本では見学者や地域の人へその施設の良さが伝わっていない。もつと見せ方に工夫をしてみたらいいのと思う。

貴重なお話ありがとうございました。これからも養成校とのつながりを大切にしていきたいと思えます。

ほんとやね。これからはもつと学校と施設が提携関係を結んでいく必要がある。ボランティア事業、大きな大学同士だけでなく、施設全体と共同研究を行って、実習生が施設内をうろろし、職員もどうかしていい環境にしていけることが重要であると思う。こっちで勉強会、こっちで実践など、協力していける環境になればと思う。

※ボランティア事業

学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学・私立短期大学に対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する「私立大学研究ボランティア事業」



- お名前 …… Aさん(70代)
- 疾患 …… 高血圧
- 生活環境 …… 一戸二階建てに妹・弟と同居。
近隣に姉が住んでいる。
- 状況 …… 気力がわかず、体重が減っています。
転びやすくなりました。
前みたいに元気になりたいです。

よく転ぶようになってきた…

介護の『あれこれ』

よく転ぶとの嘆き…

当法人の短時間通所リハビリテーション(以下、短時間通所リハ)のご利用者のお一人を紹介します。昨年、長崎市の平成29年度の地域支援事業で当法人が関わっていた「すこやか健康教室」に参加されていた方です。

当初は介護保険申請が行われておらず、ふれあいセンター職員の方から「健康教室に興味があって、見学を希望している」といったお話しを頂いたところから関わりが始まります。大浦地域包括支援センター(以下、大浦包括)の職員にも入って頂き、健康教室への参加が決まりました。その後は順調に体調を崩すこともなく参加されていきました。秋頃になったあ

る日、本人様より「このところ、毎日のようにふらつきやむっけがあり、最近をよく転ぶんです」と相談がありました。

短時間通所リハとの出会い

健康教室で関わりの深かった理学療法士が事情を聞き、まずは主治医へ報告することとなりました。精密検査のためにMRI検査が行われましたが、特に目立った異常所見も見当たらないとのことでした。しかし、ご本人ご家族は原因が知りたい、より専門的に診てもらいたいという強い思いをお持ちでしたので、当院に専門外来を行って頂いている神経内科の佐藤先生の受診をすすめました。後日、受診して頂き、症状の聞き

取りや診察を行ってもらいました。しかし確定診断は付けられず、経過観察となりました。症状の悪化時などに迅速な対応ができるよう、大浦包括の保健師と連携を取っていました。

今年4月からすこやか健康教室での関わりが終了していましたが、大浦包括の保健師よりご本人が短時間通所リハを利用したいと言われているとの事でした。介護保険の申請の手続きを行い、要介護1の認定が下りて利用開始となりました。体重は減って家中では座椅子に一日中座って過ごすという生活が続き、栄養不足と閉じこもりによる筋力低下のために転倒しやすい状況となりました。栄養面の改善のため、管理栄養士にも相談して栄養指導も行ってもらいました。

歩けるようになった!!

介入直後からの評価の一部を図に示します。歩行速度・バランス能力にて明らかな改善がみられました。実際に利用開始以降より転ばなくなっており、ご本人からも「ここを紹介してもらって良かった」との満足度の高い評価を頂いております。利用回数も週1回から週2回とご本人の希望により介入回数は増えていきます。今後も介入を続け、住み慣れた家・地域でその人らしさを大切に過ごして頂くための一助になればという思いです。この方は年齢的にも若く、専門医による確定診断も下りていません。そのため、転倒の主たる原因を探りつつ、状態の変化等を定期的に評価していく必要性があると考えています。リハビリを集中的に行いたいというご本人のニーズに加え、専門医との情報共有といったリハビリ以外でのつ

なぎ役が今後も必要な方です。そのつなぎ役を短時間通所リハが担っていきたいと思っています。

制度と今後の展望

医療保険の制度上、主治医による診断が下ると疾患別リハビリが始まります。この医療保険でのリハビリは介入できる期間が限られています。その後もリハビリを必要とする場合や希望される場合、介護保険を利用してのリハビリ（通所リハビリや訪問リハビリ、通所介護など）が行われます。医療保険は医学的治療が中心ですが、介護保険では住み慣れた地域・家でより長く過ごすといった生活を中心に展開されます。今後必要な情報を専門職へつなぎ、早期発見と連携をコンセプトに短時間通所リハを通して地域貢献していききたいと思えます。

「リハビリ特化型」短時間通所リハビリ

こんな方におすすめ

- 病院などでのリハビリを行っていたが、外来リハビリが受けられなくなった
- 入浴や食事、レクリエーションなどは必要ないとにかくリハビリだけがしたい
- 短時間で集中的にリハビリがしたい など……

【対象者】 要支援1・2 要介護1 に該当する方

【実施日時】 月曜から金曜（祝日を除く）

午前8時30分～午後5時

【内容】 個別リハビリ、自主訓練、物理療法

【送迎サービス】 大浦包括エリア ※送迎範囲は要相談

※入浴・食事の提供はありません

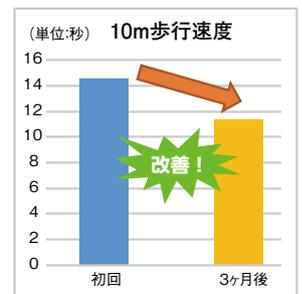
特色

☆コンセプトは「リハビリ特化・強化型」☆

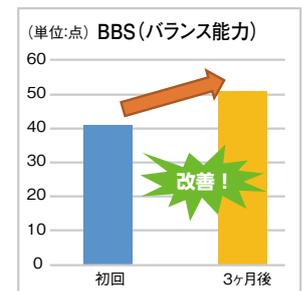
- 1～2時間の「介護保険」を利用しての通所リハビリです
- 生活の維持（医療リハ→介護リハへの早期移行）を目指します
- 適切な介護サービスが利用できるよう、リハビリの視点からアセスメントします
- 医療の特性を生かし、介護から医療への早期発見・連携を目指します
- 健康寿命を延ばすため、運動機能だけでなく、認知機能・嚥下機能・栄養に着目して連携を図ります



歩くのが速くなりました



いろいろな動作でふらつきが減り、転びにくくなりました



とまちミルネ！

戸町地区の冬の行事として定着してきた「とまちミルネ！」。今回開催7回目を迎えるにあたり、立ち上げメンバーで現在戸町育成協会長、とまちミルネ実行委員会代表幹事を兼任されている田口さんからお話を伺いました。

まず、「とまちミルネ！」が始まった経緯を教えてください。

始めたきっかけは、オヤジの会のメンバーである2人が地域活動の打ち上げの席で、

『松ヶ枝公園みたいに、戸町の公園をイルミネーションで飾ることはできんやろうか！』

『公園をイルミネーションで明るくすることで防犯にもつながる。』

『戸町の冬のイベントとして、地域活性化になる。』『新戸町公園完成記念にこけら落としイベントを開催したい！』等の思いから、公園にイルミネーションを飾る団体『とまちミルネ！実行委員会』を立ち上げ、戸町の地域団体を巻き込んで実現させよう！という事になりました。

立ち上げから開催に至るまで「苦労されたことも多かったのではないのでしょうか。」

まずはオヤジの会メンバーと商工会青年部メンバーに賛同してもらい、自治会をはじめ各地域団体に趣意を話して協力の輪を広めていきました。初めてのことでわからないことばかりだったので、松ヶ枝公園のイルミネーション装

飾を主催し先駆者である大浦青年協会に、イルミネーションの購入先、装飾の方法、資金の集め方等々色々な質問をし、多くの事を参考にさせてもらいました。感謝しています。

初年度の資金は新戸町公園こけら落としイベントとして新戸町自治会が予算を組んでいた他、企業・地域団体から協賛金を集め公園会場内に協賛ボードに協賛企業・団体名を掲示しました。2回目からは「戸町地域生活便利カレンダー」を作り、戸町のイベントや戸町に関する情報と、戸町の地図に協賛企業の所在地を印し、企業団体名を掲載。こちらにも色々なご意見を参考に改良を重ね、年々良いものになってきましたが、製作費の負担が大きいため、

今年製作を休止しました。

平成最後の今年で7回目の開催となりました。戸町地区は「上」と呼ばれる新戸町、上戸町付近と「下」と呼ばれる国分町・戸町1〜5丁目付近に分かれ、一方通行で上と下が分断され交流しづらい地形の交通事情があります。1回目は新戸町公園の上のみのイベントでしたが、2回目からは下にある鶴見公園も会場となり、上下の両方で同時に開催されるイベントとなりました。



とまちこども園の作品です！

2会場ということで苦労は倍ですが、上下の垣根を越えた協力を受けやすいという利点もあります。

立ち上げに関わっているオヤジの会の活動についても教えていただけませんか。

とまちミルネ！はオヤジの会が主催していると思われていますが、これは誤りです。オヤジの会は戸町小学校と戸町中学校の保護者がわが子の通う学校を中心に子ども達の為に活動することを目的とした団体で、中学校で開催される商工会夏祭りへの出店や新年に学校に飾る門松を作ります。とまちミルネ！は公園にイルミネーションを飾ることを通じて戸町の魅力アップ、地域の活性化、防犯強化等が目的であるため、実行委員会がオヤジの会とは別の組織として活動しています。将来的には他の団体に所属している方も代表になっていただきたいと思います。

地域の方々からはどのような声があがっていますか。

『今年も綺麗だったね。』『年末年始の街が明るくなった。』『作業しているところを見かけたよ！頑張って！』『もっと遅い時間まで点灯してほしい』『消えてしまうと寂しいね』等軒並み好評価を受けています。地域の活性化に貢献できているという自負を持っています。

地域に親しまれるイベントになったとまちミルネですが、今後の課題や希望などありませんか。

同じメンバーがいつまでも同じことをやっている状況では発展が止まってしまうので、新しい体制にする必要があると考えています。私が代表となって4年目ですが、私がかうまく後任への引継ぎができていない現状です。

戸町地区のご老人から子どもまで全ての世代の皆さんに愛され、誇れるイベントとして、将来はとまちミルネを見て育った子どもたちが中心となり発展し、イルミネーションの光が街中に広がればとても嬉しく思います。

ありがとうございました。

ご協力

戸町中学校区青少年育成協議会会長
とまちミルネ！実行委員会代表幹事

田口 満様



鶴見公園入口



点灯式の様子

詳しくは
「とまちミルネ！」
で検索!!

とまちミルネ！ |

検索



Heartful × Multiple

〈マルチプル〉



NBCラジオあさから!

『我ら元気な介護世代』

毎週木曜 11時15分より
AM放送 1233kHz(長崎)にて放送中!

放送内容を
文章でお届け!

今回のラジオでは介護保険料についてお話しさせていただきました。保険料には65歳以上の第1号被保険者が支払う保険料と40歳から65歳未満の第2号被保険者の支払う保険料の2パターンがあります。まず第1号被保険者が支払う保険料は、市の介護サービスがまかなえるよう市区町村ごとに決定されます。第2号被保険者が支払う保険料は、国民健康保険に加入している場合と職場の医療保険に加入している場合とで保険料が異なり、加入している医療保険によっても違いがあります。この2つ、支払いの方法も違うんです。第1号被保険者の方は年金額が年額18万円以上の場合、年金支給月に年金から天引きされます。年金額が年額18万円未満の方は納付書で各自納めることとなり、金融機関等で納めることができます。忙しい方や、なかなか外出が出来ない方は、口座振替がおすすめです。第2号被保険者の方の支払い方法は国民健康保険に加入している場合、世帯主が納めることになっており、職場の健康保険に加入している方は所得に応じて給与から差し引かれます。

この保険料、特別な事情がないのに滞納が続く場合、未納期間に応じて給付が一時差し止めになったり、実際に給付を受けることになった時、負担割合が1割から3割に上がったりの措置が取られることがあるので、保険料の未払いには注意して下さい。今回は介護保険料についてのお話をさせて頂きました。もっと詳しく知りたい方や、何かご不明な点があれば長崎市介護保険課、又は近隣の居宅介護支援事業のケアマネジャーまでご相談下さい。

(専門アドバイザー／居宅介護支援事業所 緑風 ケアマネジャー 高島謙介)

イベントスケジュール

イベント	風頭公園桜まつり	
日時	3月末～4月上旬	
場所	風頭公園	
ひと言コメント	展望所には坂本龍馬の像があり、長崎港を一望できる公園。例年350本のソメイヨシノが楽しめます。期間中は舞台も設置されカラオケ大会などの催しもあります。	

Heartful×Gallery

〈 読者投稿けいじ板～日々是好日～ 〉



花のパッチワーク
(南長崎クリニック通所リハビリ)



消しゴム印鑑 (大浦十三番館デイサービス)



クリスマスツリー
(看護小規模多機能ホームいきいき)

しもやけの
か細い手指に
母想う
やまのふもと

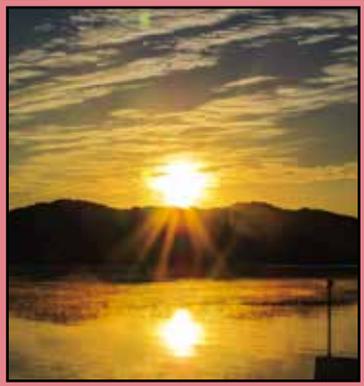
いつの日か
逢えるその日を
楽しみに
まっち

大浦は 教会の鐘 寺の鐘
神社の鐘に 汽笛も聞こゆ
ミキ子

霧深く 港の山もみえざりし
おもむき変える 朝のひととき
淑子

朝ごとに顔を見合わせ安堵する
一人暮らしの母を想って
注連肉

表紙のお話し



琴海の形上湾に昇る日の出の写真です。寒い日には朝もやも出て幻想的な雰囲気になります。この形上湾、夏にはペロン大会で盛り上がるなど四季で様々な顔を見せてるんですよ。

～編集後記～

今年は『共に生きる』というテーマで、私たちの暮らしを支える活動に取り組んでいる方々を紹介していこうと思います。名前は聞いたことあるけど、どんな活動しているの?という皆様の疑問を解消していきます。

皆様と『共に生きる』広報誌にしていきたいと思っておりますので、本年もよろしくお願ひいたします。

五福会編集長 宮崎 康平

「創業理念」

当法人は、医療及び介護事業を主体とし、それに関連する分野において
常により人間的に、より科学的に対応することに徹し、社会に信頼され、絶えず成長し続ける
法人を目指します。その実現のために以下の理念を掲げます。

より人間的に、より科学的に

【第一条】
本物のやさしさを
全ての人の生命、人間性、自主性そして個性を尊重し、
安心しておくれる継続療養の実現を目指します。

【第二条】
仕事の質にこだわりを
他者の批判に耐えられ、客観的で妥当性のある
仕事を目指し自らの職務の質的向上に努めます。

【第三条】
法律・道徳を守り、
自らが理解されるように
職務倫理（プライバシーの保護と守秘義務、
強要の禁止、その他）を遵守し、
職務内容の説明に努め、理解・同意を求めます。

【第四条】
自分の成長のため
自らの職務の社会的意義及び医療・福祉分野での
位置づけを自覚し、職務の中で自己実現を目指します。

【第五条】
本当のチームワークを
各自、我がままを捨て、仲間への思いやりを持ち、
良好な職場環境の形成に努めます。

春秋会・五蘊会が手がける事業および拠点★



医療法人 春秋会

本部：南長崎クリニック
〒850-0921 長崎市松が枝町3番20号
TEL.095-827-3606
<http://www.syunjyu-kai.or.jp/>



ごうんかい
社会福祉法人 五蘊会

本部：特別養護老人ホーム 琴の浦荘
〒851-3103 長崎市琴海戸根町743番地47
TEL.095-884-3510
<http://www.gounkai.or.jp/>

